

家族の脳卒中気付いて

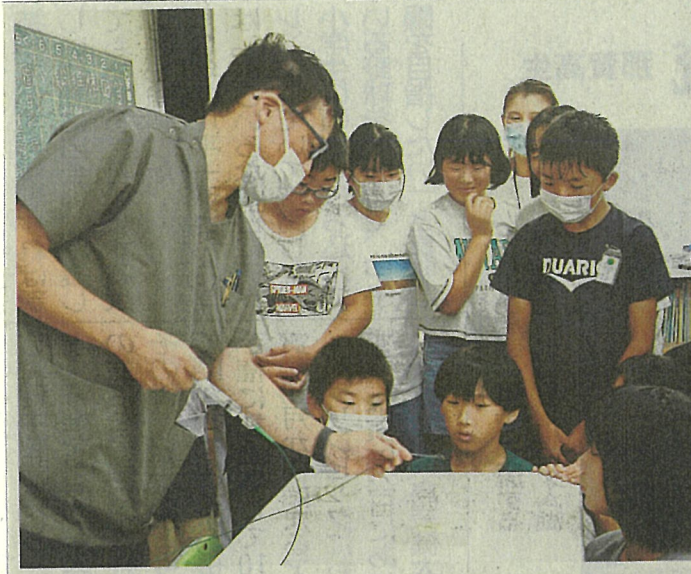
専門医、渋野小で出前講義

徳島市の渋野小学校で25日、脳卒中の専門医による出前講義があり、6年生38人が脳卒中の症状や発症時の対処法を学んだ。徳島大学病院脳卒中・心臓病等総合支援センターが、家族ら

が発症した際に素早く気付いてもらおうと初めて開いた。

センターの山本伸昭医師が、脳卒中は日本人の死因の第4位に入り、発症すると重い後遺症が残るといっ

た病気の怖さを説明。早期発見・早期治療を促す言葉として、症状を表す▽Face(顔面のゆがみ)▽Arm(腕の脱力)▽Speech(言葉のもつれ)▽Time(発症時刻)の頭文字を取った「FAST」を覚えてほしいと呼び掛けた。実際の器具を用い、血栓を取り除くカテーテル治療の様子も実演した。吉田凌久君(12)は「脳卒中になつた人を見つけたら、すぐに



医師からカテーテル治療の説明を受ける児童＝徳島市の渋野小

病院に連絡する」と話していた。

小中学生向けの脳卒中をテーマにした出前講義は今後、実施校を広げていく予定。(廣井和也)